

ナミビアの未知を探求せよ！



経済学部 1 年
濱田 錬
ナミビア
2017 年 2 月 28 日～
2017 年 3 月 29 日

渡航概要と内容

1. ナラ自生地の気象観測

まだ誰も成功したことのないナラの栽培を目的として、自作計器による気象計測、ドローンを使っての地形計測、ナラを取り巻く生態系の観察などを行った。



2. 半乾燥地帯の水生昆虫の種類調査

砂漠のような乾燥地域と隣接する地帯における、水生生物の生息状況を調査した。最近南アフリカで見つかったゲンゴロウのように、遺伝的に特異な種が生息している可能性がある。また、水上の乾燥度合いによる水中の生態系に変化を明らかにするという目的もあった。



3. 新種発見を目的とした昆虫種の同定

ナミビアには森林～砂漠まで様々な環境がそろっている。そのため数多くの生物が生息しており、今後も新しい種が発見されていくことが予想される。対象を、種数が多く発見が容易な昆虫に絞り、できるだけ多くの同定を行った。同定の方法は主に、現地で購入した図鑑で調べる、博物館の資料を調べる、ゴバベブの研究所をあたる、の3つである。



現地の研究機関でも分からなかった昆虫。新種の可能性がある。

渡航を通じて感じたこと

今回の渡航を通して最も感じたことは、大学生であること、特に京都大学の大学生であることの便利さである。少し足を延ばせば素晴らしい教員方に会いに行けるし、高い能力を持つ友人の力を借りることもできる。「京都大学」というネームバリューによるものは分からないが、ビジネスパーソンとして活躍している方々にもかなり興味をもっていただけだし、海外の研究機関でも邪険に扱われることもなかった。そもそも、これほどに自由度が高く素晴らしいプログラムに参加することができたのも京大生だからである。これほど良い立ち位置にいて能動的な活動を行わないというのはかなりもったいないだろう。今回のような海外渡航に限らず、自分で考え自分で準備し自分で実行する、という能動的な活動を今より多くの学生が行うようになれば、京大はもっと「おもしろい」大学になるのではないだろうか。

今回の経験をどのように今後生かしていくか

まず、今回の経験を通して明確に自覚される自身の成長として、主体性の強化が挙げられる。計画から実行までを自身の手によって行うという今回の経験は、学問のみでなく、ありとあらゆる場面で必要とされる能力の強化につながったという点で、人生の宝である

ことに疑いの余地はないだろう。第2の成長は、この世の真理を追い求めるという楽しみを覚えたことである。今回行った研究は、教授方から見れば子供の児戯のように拙いものであったろうが、私にとってはこの世の謎に初めて真面目に挑んだといってもいいものであった。発見した「名もなき昆虫」についての調査は今後も継続していくつもりだ。この喜びを知っているのと知らないのでは、外界に対する知覚認識の意識がまるで異なる。それは私が、今後喜びをもって活動できる行動半径の拡大を意味し、それはそのまま活動クオリティの上昇につながる。研究という経済学部生にはあまりなじみのない活動が、普遍性のある成果につながったということは非常に喜ばしいことであった。

主な奨学金の使途

- *渡航費
- *レンタカー諸費
- *食費
- *計測機器・医療道具等
- *宿泊費 など

